

開催報告

トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第14回 天王川自然再生ワーキンググループ



開催日：2017年3月8日(水)18:00～19:45

場所：トキ交流会館2階会議室

参加者：WGメンバー8名、傍聴4名

自然再生後の天王川をどのような枠組みで維持管理していくかの議論を行いました。

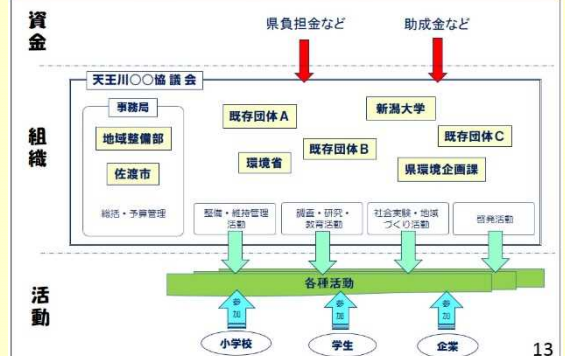
今回は、前回に引き続き、天王川の自然再生後の維持管理を担う組織の枠組みについて議論を行いました。

自然再生する河川区域だけでなく、ビオトープや学習水田、水田魚道など、トキの餌場づくりを目的とした周辺施設の整備・管理などとの一体的な取組や地域づくりの観点などについて活発な意見交換をしていただきました。

WGの様子



②協議会への県・市の関わり方(協議会イメージ)



協議会のイメージ(案)

③協議会の目的・取組内容(案)

【目的】

天王川の自然再生事業をきっかけとし、その周辺エリアを含めたトキなど生物全般の生息環境の保全と調査研究を行うことを目的とする

■水田ゾーン ■河川の自然再生ゾーン ■ビオトープ・学習水田ゾーン



協議会の目的・取組内容(案)

③協議会の目的・取組内容(案)

(2) トキの生息環境に関する調査・研究、環境教育

- 体験学習(ビオトープ、農業体験)受け入れ
- 野鳥観察小屋の整備
- 環境教育用テキストの作成
- 定点カメラによる水辺へのトキ飛来状況調査
- 魚類、水生生物、両生類等のモニタリング調査
- ビオトープ内でのドジョウの成育調査
- 自然再生後の河川の委譲に関する調査



野鳥観察小屋のイメージ

維持管理の枠組みに関する意見交換会での主なご意見

- 管理組織として協議会を立ち上げた場合、安定的な財源が必要だ。トキ保護募金から「補助」ではなく「負担金」として支出してもらえると安定財源になって助かる。
- ウスクラ沢川沿いの休耕田は管理が難しいが、葦畑になっていたところを綺麗にしたら、十数羽のトキが毎日のように餌を取りに来ていたことを考えると、この活動の一環で何とかしたいという思いはある。
- ボランティア精神は基本であるが、汗をかいた人に作業日当くらい払えるという形をつくって継続的に作業してくれる人の確保ができる仕組みをぜひ考えたい。
- 活動の中に「地域づくり」の観点をもう少し入れ込んだ方が良いと思う。
- 天王川を自然再生したことによって、加茂湖への影響面で良くなったとか、増水した際に遊水機能が発揮されたとか、調査したり記録をとったりすることで漁協との関係がうまくいくのではないかと。
- 活動のなかに森林整備のようなものがあった方が良いと思う。トキがねぐらとしているのは森であり、森と水辺は連続性があるので検討してほしい。
- カキ殻を使った水質浄化はできないものか。
- 観光客で野生のトキを見たいという人は大勢いる。その人たちにトキを見てもらうために散策道などの整備も行うべきだ。
- JSTで教育を受けた人たちにとって、草刈りや里山ガイドなど、ここが活躍のフィールドとなったらいいのではないかと。
- 河川の自然再生エリアだけでなく、その上・下流のビオトープや水田もこの活動のフィールドとして考えるのなら、そのノウハウを一番持っているのは県の農地関係職員なので、協議会を立ち上げるにあたってはぜひ農地関係の職員にも声をかけてほしい。
- 今、既存の団体が36くらいあるが、それらの団体が確実に活動できているかというところではない。構成員の高齢化と組織の財政力の乏しさのため活動したくても難しい状況になっている。「さあ、もう一度やろうよ」となるためには協議会組織を立ち上げ、きちんとした大きな枠組みをつくるべきだ。

今後の予定

- 整備計画についてアドバイザーのご意見を聴取したうえで報告するとともに、協議会立ち上げに関して既存団体等へ意向確認した結果や課題について報告、議論します。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

- ◆ 地元集落： 潟上集落、正明寺集落、田野沢集落
- ◆ 関係団体： 佐渡生きもの語り研究所、トキとき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樺の自然を守る会
- ◆ 学校関係： 伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校
- ◆ 行政機関： 環境省佐渡自然保護官事務所
- ◇ 事務局： 佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL : 0259-74-4040 FAX : 0259-74-2048 Email : fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp